

## 令和元年度 第2回岡崎市図書館協議会議事録

- 1 日時 令和2年2月13日 午前10時開始、午前11時45分終了
- 2 場所 図書館交流プラザ（りぶら）  
3階 302会議室
- 3 出席委員 柴田委員、中村委員、平岩委員、鈴木委員、江良委員、  
山田委員、浦部委員、浅岡委員、横山委員

傍聴者 なし

説明のため出席した事務局職員

河内社会文化部長、三宅中央図書館長、大山館長代行、  
鈴木総務係長、天野資料提供サービス係長、  
上川畑情報サービス係長、杉山総務係主任主査

### 4 次第

- (1) 社会文化部長あいさつ  
河内社会文化部長あいさつ

- (2) 会長あいさつ  
柴田会長あいさつ

### (3) 議事

ア 令和元年度事業 経過報告

イ 岡崎市立図書館の運営基本方針について

ウ その他

### (4) 連絡事項

### 5 報告及び議事の要旨

- (1) 令和元年度事業 経過報告

(A委員)

- ・ りぶらまつりの際、普段図書館では見られない障がいのある人のためのものが展示されておりとても良かった。日頃図書館に関心のない人もりぶらまつりでは巡ってもらえるので、その時に「あんなものがあるのね」と話題になったのでこうした取り組みは続けてほしい。

(B委員)

- ・ 対面朗読ボランティア養成講座について、養成講座修了後に9名新規登録されて全部で20名になったと報告があったが、障がい者向けの対面朗読ということで良いか。また、毎月どれくらいの利用があるのか。

(事務局)

- ・ 対面朗読サービスの利用状況については、現在定期的に利用しているかたが1名で、ほぼ毎週土曜日御利用いただいている。

(B委員)

- ・ 広島県の福山の図書館を見学行った際、「いつでも声をかけてください」という対面朗読の掲示があり驚いた。だいたいどこでも予約制だと思うが「いつでも」ということはボランティアの方が詰めているのか、聞いてみたら職員が依頼に応じてやっているとのことだった。

きちんと訓練を受けていなければ朗読は難しいのではと思ったが、反面、いつでも自分が読みたいものが出てきたときに読んでもらえるというのは素晴らしいことだと思う。例えば新聞の折込みチラシは、その日のうちに見ないと安いものが分からないし、今時は手紙のやり取りは少ないかもしれないが、届いた手紙の内容をなるべく早く知りたいのは誰でも同じだと思う。少しでも早く障がいを持った人が情報にたどり着けるよう、20名の方が登録されているので、工夫をしてもらえるとありがたい。

(C委員)

- ・ 今の話だが、愛知県図書館では予約なしで実施している。これは県図書館だからできることであり、音訳をしていることもあって、ボランティアが常駐している。いない場合は職員が行うが、担当職員なのである程度の知識は持っている。音訳と比べると対面朗読というのは顔を合わ

せて行うので、技術的に楽というわけではないが、分からないことは聞き返すことができるので、そういうことから体制づくりはやりやすい気はする。

一番重要なのは、目の不自由な人がここまで来るとというのがハードルになるので、地域図書室等の場所にボランティアのかたが行って対応ができるとうい。地域図書室、市民センター等で図書館ではなく市で障がい者サービスを行っているとういのであれば別だが、せつかく 20 名のかたが従事しているのに、月に 1 回程度では実施機会がなく忘れてしまうので、そうしたことも考えなければいけない。

どこでも対面朗読とういのは利用が少なく、なかなか難しいとうい思うが、地域に出ていくようなことをしていくとういと思う。

#### (D 委員)

- ・ 最近あった「大人のための音読会」は 2 月 3 日、10 日とあるが何人ぐらいの参加があったか。

#### (事務局)

- ・ 定員 20 名に対し申込みは満員で、実際参加されたかたは 3 日は欠席なしの 20 名、10 日は体調不良等の欠席があり、17 名の参加だった。

#### (E 委員)

- ・ りぶらまつりで図書館バックヤードツアーをやったとのことで、先ほど A 委員からも、図書館の外側では見られないものの展示があり良かったとお話があったが、バックヤードツアーをりぶらまつりだけではなく常に、あるいは年に何回かやってもらえないか。私も興味があるが、りぶらまつりだと大勢のかたが来るし、用事と重なってしまうこともある。平日等でも年に 1、2 回追加してもらえるとありがたい。

以前仕事でスーパーの裏側を公開する見学会を担当していたが、表からしか見ないものを裏から見るとすごく興味を持ってもらえ、お店自体にも興味を持ってもらえる。図書館もバックヤード、裏側を見ることができれば図書館自体にも興味を持ってもらえるのではとうい思う。

#### (事務局)

- ・ バックヤードとういことで作業スペースを見てもらうため、限られた日としてりぶらまつりの日を挙げており、小学校の見学などで申出があればその時は随時対応を行っている。

要望が多くあれば、図書館まつり実施時などに増やすことは可能だが、常時実施は受け入れ態勢からも難しい。イベントに合わせて実施回数を増やすことは検討していきたい。

## (2) 岡崎市立図書館の運営基本方針について

事務局から説明

### (C委員)

- ・ 運営方針を定めることは良い、しなければならぬと思うが、岡崎市の生涯学習推進計画の中に運営方針を記載するのでは、記載できる量というのはそれほど大きなボリュームではないのではないか。生涯学習全体であれば学校教育も含まれる、その中で図書館が大きな位置を占めにくいと思うので、現在の在り方、運営指針、どれくらいのレベルになるのか、量的内容について考えを教えてください。

### (事務局)

- ・ 今後検討していくが、資料にあるような1枚だけのものではなく、具体的にどういう図書館を目指していくか、個々の業務として盛り込む予定である。現在の第2次生涯学習推進計画では確かにそれほどのページを割いていないが、想定としては1つの章の形で盛り込むことを考えている。

### (E委員)

- ・ 読書通帳について、今は中央図書館だけだが、地域図書室にも設置するという計画はあるか。小中学校の立場では、子ども達の読書指導をする中で生涯学習という観点に立つと、公共図書館を活用できる子ども達を育てたいというのがある。

地域図書室を身近なものとして積極的に活用していくことを考えたときに、読書通帳というのはとても魅力がある。子ども達が、そこで本を借りて通帳を作ろうとなるが、なかなか中央図書館までは来られない。例えば東海中学校は岡崎市の東のはずれで、小中学生がここまで来るのはなかなかハードルが高い。

地域図書室の充実といわれていたので、読書通帳を全市の子ども達が利用できる環境づくりをする、これも一つの大きな手立てになるじゃないか。小中学生から活用してもらえれば、高校大人とずっと続くことになるが、そんな発想はないのか。

(事務局)

- ・ 現在のところ具体的な設置にかかる計画はないが、読書通帳導入はそもそも対象も小中学生以下、子どもたちの読書活動推進のために導入している。

市政 100 周年の時に、岡崎信用金庫からの寄附で設置をしたという経緯があり、予算的な裏付けがないと導入を進めるというのは難しいが、中央図書館まで来られない、他の市民センターへという意見も導入当初にいただいているため、御意見があったということで検討課題として考えていく。

地域図書室の充実という点も基本方針で申し上げている。地域図書室というのは市民センター図書室が主となるが、場所がかなり手狭なところもあり、今後施設面で改修が予定されるところに関しては、スペース面サービス面で充実を考えていきたいと思っているが、具体的な時期があげられる段階ではない。

(E 委員)

- ・ 重ねて要望だが、そういう意味ではあまり地域図書室が小中学生にとって魅力あるものになっていないと思われる。利用者分析をして、どこに狙いを持っていくのか。図書館を利用する子ども達、市民を育成するとか、少し大げさだが岡崎市全体の文化レベルをアップするためには、小中学生をターゲットにするのは一つのポイントだと思う。

小中学生も利用しやすいような蔵書構成や、読書通帳などは動機づけになるので、うまく組み合わせて実施すれば今後図書館を利用する大人が増えてくるのではないか。もう 10 年、20 年という先を見据えた取組みをしていただきたい。

(A 委員)

- ・ 中央図書館だけでなく地域図書室を充実させていくという方針が盛り込まれており、是非充実してもらいたい。

議事資料の本編 1 ページ目の蔵書数で、地域図書室の蔵書は岩津や矢作、げんき館で同じくらいの蔵書数だが、利用数はどのくらいか。私もげんき館は使いやすくて利用する機会も多く、他の人に聞いてもげんき館は意外に利用されているようなので、そのあたりを分析し何をしたら一番良いか考えればより広がっていくのではないか。

(議長)

- ・ 今の質問で、特に蔵書数の多い岩津、矢作、げんき館の利用状況の数字等があるか。

(事務局)

- ・ 平成30年度の貸出冊数では当然南部市民センターが多くなるが、次に多いのがげんき館になる。市民センターではないが、新しく額田センターへ移転したことから額田も比較的多く、次が岩津というような状況である。

(議長)

- ・ 蔵書が多いから利用が多い、利用が多いから蔵書が多いといったことではないということか。質問は、岩津、矢作、げんき館に焦点を当てたものだが、必ずしもそうではないということか。

(事務局)

- ・ 比例はしているが、げんき館は蔵書数の割には利用が多く便利な場所にあるという地理的要因もあると思われる。
- ・ 市民センターは予約本の受取貸出がメインとなる。議事資料本編にある蔵書冊数で、六ツ美市民センターは8,697冊と書いてあるが、貸出冊数は大人子ども合わせて32,000冊を越えている。比較として蔵書数がある程度多い矢作市民センターは17,138冊あるが、貸出冊数は36,513冊、実は六ツ美とそれほど変わりがない。

単純にその市民センターの資料が借りられているという比例だけではなく、東部や六ツ美といった中央図書館から遠い地域の人は市民センターを利用する割合が高いと分析している。

(F委員)

- ・ 先程のE委員の意見に関連するが、「図書館へ行きなさい」と言われる訳ではなく、行きたくなると行くものである。

幼稚園で活動していて、本が大好きな子には幼稚園だけではなく図書館に行けば本がたくさんあることを知らせていく、そんなつなげる活動をしているが、学校図書館が充実していたり、学校の先生が図書館司書の先生だったり、そういう人が丁寧に子ども達に図書館指導をさせて、図書館のイメージが具体的になったときに図書館に行く、そういう行動に出るのでは、と幼児期でも感じている。

図書館に行く子どもを持つ、図書館に行く大人を作るというのは、出発を丁寧にしなければ、よほど意識が高くない限り、大人になってから図書館を利用するようにはなりにくいのでは、と保護者と接すると感じる。

「絵本を声を出して読もう」というのをやっており、「読んでみたらすごく楽しかった」とそう思うことで、子どもが借りてくる本を読んであげようというかたもいるが、子どもが本を借りてきて「字が読めるようになったら自分で読みなさい」という人がすごく増えていると感じる。絵本は子どもも見られるけれど、大人に読んでもらうという基礎基本についても話をしている。学校図書館でも、中学生でも多くがスマートフォンを持っている傾向の中で、活字でもって図書館へ、というのはそれなりに丁寧にやっていくことでつながる気がする。

そういう意味で図書館だけが一生懸命やっていると思うが、図書館に行く人が人口比ですごく少ない気がする。地域の図書館と同時に学校教育の場所、子ども達が学ぶ場所が、そういう場所であるという位置づけを図書館で、生涯学習計画に入れ込むときに触れてもらえるとうれしいと、幼児教育に関わるものとして感じている。

#### (D 委員)

- ・ 窓口アンケートで、自動返却や返却ポストなど返却に関するサービスに要望が多かったということで、インターネットで予約をして自宅取り寄せができ、返却用の袋も本と一緒に送られてきて郵便で返却できる、家から出ないで利用できる図書館の貸出返却があったらいいと思ったので、一意見として申し上げる。

#### (E 委員)

- ・ 先ほどF委員から学校図書館の重要性をおっしゃっていただいたが、小中学校はそうしたことは十分認識していて、より良い図書館づくりということで努力している。この会議でも以前から話題になっている学校図書館司書について、将来的には配置しなければならないが、現在岡崎市の小中学校では教員補助者がその任を担っている。今年の夏休みに、その教員補助者のスキルアップを図るため、学校図書館の図書主任と合同の研修会を開いた。中央図書館の天野さんにも来ていただき、図書館づくりについて色々なアドバイスをもらっている。

そういう意味では中央図書館が小中学校の図書館づくりにも惜しむことなく協力してもらっているという現状があるので、御承知おきいただ

きたい。

(D委員)

- ・ 私は司書資格もあり、こちらで働きたいと思ったこともあるが、午前9時から午後9時までと労働時間が非常に長い。シフトがあるのだろうが子どもがいたりすると働けないのではないか。夜何時なら何人くらい、一日の中でも何人とか、時間別に利用者数というのはわかるのか。

(事務局)

- ・ 傾向としては大人も子供も、午後7時以降は大幅に減少する。特に子ども図書室については幼稚園や保育園の保育士等の利用があるくらいで、その時間帯には子どもは来なくなる。全体として市民センターも含め、午後7時以降は利用者の数は減っている状態である。  
利用者としては大人が多くなり、市内学校の試験期間だと高校生が多くなるが、特に平日よりも土日の午後7時以降は利用者が少ない傾向となる。

(D委員)

- ・ 働いている人もそれに合わせて少なくなるのか？

(事務局)

- ・ 市の職員はシフト交替で、土日の出勤者は平日よりも少ないというのはあるが、窓口業務に関しては委託をしている。委託スタッフの中で利用者ニーズに合わせたローテーションを考えている。

(D委員)

- ・ こんなに長い時間空いている図書館は珍しいのではないか？

(事務局)

- ・ 当図書館が開館した際は県内では岡崎市だけだったが、現在では一宮市の中央図書館と、豊橋の清水図書館が午後9時まで開館している。

(G委員)

- ・ 2点伺いたいが、4ページで蔵書構成の満足度が低いとあるが、こういった部分について満足度が低かったり、具体的な要望などがあつたりするのか。分かればお教え願いたい。



(事務局)

- ・ 具体的にどの分野の本が、という質問ではなく「蔵書についての満足度は」といった質問だったので、種類が多いとか冊数が多いとか、その辺りへの満足度だと思われる。

(G委員)

- ・ 先ほどの事務局説明にもあったように、地域図書室は棚に並んでないものも中央図書館から取り寄せられるので、蔵書を全体的にとらえて利用する必要があると思うが、直接図書館に足を運ぶ人はどういった蔵書が並び、興味があるものを棚の並びの中で深めていく体験は図書館ならではだと思う。

もちろん中央館であれば利用できるだろうけども、地域館にもそうした蔵書バランスがあると満足度が上がるのではないか。後は中央館からどういったものが取り寄せられるかというのが分かる工夫があれば、そういうところが改善されるのではと思う。

もう一点だが、3ページで利用率減を食い止めるサービスが必要とあり、読書通帳がとても効果的だったということだが、例えば中高生、ティーンの利用等について今現在減少傾向なのか増加傾向なのかは分かるか。

(事務局)

- ・ 中高生の読書傾向については、子ども読書活動推進計画を今年度4月に策定しているが、策定にあたりアンケートを実施した。小学生、中学生、高校生がそれぞれ1か月に読書をするかどうかという質問をしており、結果としてはやはり中学生、高校生の読書というのは減少している。一月に一冊も本を読まないというのが50%程度あり、岡崎市だけでなく全国的な傾向となる。

中学生については若干不読率が減って改善しているが、まだ十分とは言えない。小学生は朝の読書タイム等もある関係だと思われるが、1か月に1冊も本を読まないというのは本当にわずかだが、高校生では特に不読率が高い。

(G委員)

- ・ よく午後8時、9時の時間帯に利用させてもらうが、高校生がいる人数というのは、印象としてとても多く感じる。図書館に来館し、自習を

していたり、ロビーでおしゃべりをしていたりする高校生の数と、読書をしたたり、実際に貸出したりする高校生の数というのが結びつきにくい印象を感じている。

小中学生は読書通帳等があるが、自身で読書を積み上げる記録というか、喜びになる工夫をすると何かが変わるのではないか。ティーンズコーナーも充実しているので、何か手立てができれば良いと思う。

今度ビブリオバトルを高校と行うということなので、そうしたところからの盛り上がりも期待したい。

### (C委員)

- 他の中核市や県内市町村との分析の中で、本館以外のサービスポイントの充実が鍵になると分析され、運営方針に反映していくと思うが、先程生涯学習計画の中でどれくらいのボリュームになるか尋ねたのは、やはり生涯学習計画の中で語りうる図書館の基本計画は、運営計画や中長期の計画としてはボリュームが小さくならざるを得ない。

生涯学習計画の中で図書館がしっかり主張していくためには、もっとボリュームの大きい計画と、それに対するバックデータを持つていくことが必要になる。

先程の地域図書室の状況について質問もあったが、細かい利用状況であるとか、どういう地域からどういう人が来ているか、どうして地域図書室の充実が必要なのか、きっちり示せるバックデータを用意する必要がある。今出ているデータで必要ということは分かるが、必要だというだけではなく、ここに重点的にお金を投入しなければいけない、ここを充実しなければいけない、それが蔵書なのか、人なのか、場所なのか、ということ、5年計画または10年計画くらいであれば、具体的に主張することは必要ではないか。

生涯学習推進計画の中に書けないとしても、少なくとも図書館として「こうだからこうなる」と主張できるようしておくことが必要だと思う。

- 窓口アンケートについて、こうしたアンケートを委託事業者が設けるのは結構なことだが、やはり図書館主体となつて行わねばいけない。回答を見てみると自動返却機であるとか、電子書籍や予約棚とか、おそらくそういう選択肢がある。この選択肢は明らかに委託事業者が進めようとしているものと一致する。

これはこれで結構だし、参考にするのは良いが、蔵書構成の問題であったり、やはり図書館が主体になつて調べなければいけない。大抵の調査では蔵書構成の満足度は常に高くないと出て、サービスは常に満足度

が高くなるものではあるので、それだけでは何も示したことになる。もっと細かいデータを集める姿勢が必要ではないか。

- ・ もう一つ言わせてもらえば、経費を増大させることなくサービスを向上させるというのは非常に難しい。経費を増大させねばならないことを主張できるものを作る必要がある。

もちろん不要なもの、スクラップすべきものはあるだろうが、少子高齢化、少子に対しても高齢化に対しても地域に対するサービスは重要で、それを充実するためのコスト増大は、ある程度は避けられない。無用なコストではなく必要なコストであることを主張することが重要ではないかと、今日の意見を聞く中で感じた。

(議長)

- ・ 基本計画作りの大きな枠組についてということと、個々の施策について様々な角度から意見をいただいたと思う。全体を通して何か言い残したことなど、よろしいか。

それでは最後に事務局からの説明にあった、岡崎市の生涯学習委員会の委員選出についてだが、図書館協議会委員からの委員選出は事務局に一任という形にしてよろしいか。

特に御意見等なしということで、事務局一任ということで決定とする。

### (3) その他

(事務局説明事項)

#### ◎ 今年度図書館に図書等の寄贈団体が4件あったことの報告

6月：岡崎南ロータリークラブから、大隅文庫の資料充実のため、6万円相当の図書

11月：モデルバーン名古屋から、交通の歴史資料継承のため、40万円相当のジオラマ模型（昭和30年代の大樹寺駅の風景のもの）

11月：タニザワフーズ株式会社から、家康文庫の資料充実のため、10万円相当の図書

1月：岡崎城南ロータリークラブから、子どもの健全育成のため、12万円相当の絵本

#### ◎ 台風19号が接近した10月12日に中央図書館、額田図書館を臨時休館したことについて

- ・ 利用者の安全を確保するため、非常災害時における岡崎市立図書館

管理運営要綱に基づき、前日午後に中央図書館等の臨時休館を決定

- ・ 決定後は速やかに図書館ホームページをはじめ各種媒体を通じて周知
- ・ 当日はりぶら自体は開館していたため、午前中は来館者も若干あった。2階中央図書館の出入り口付近で返却本受取のみ行ったが、利用者からのクレーム等はなし。

◎ 市内高校のテスト期間における中央図書館内の閲覧席利用に係る整理券の来年度配布方法の変更について

- ・ 現在テスト期間中の土曜日、日曜日及び祝日に早朝から多数の学生が並ぶ状況があり、整理券の配布及び列の整理を開館1時間ほど前から、図書館職員で行っている。
- ・ 職員及び学生双方の負担を減らすため、開館前に配布している整理券を事前予約制へすることを検討している。事前予約制はあいち電子申請システムを利用することを想定しており、来年度中に実施できるよう準備を進めている。
- ・ また、一般利用者の席を確保するため、1階西側階段付近の閲覧席は一般席への変更を検討している。

◎ 3月1日のティーンズビブリオバトルの開催について

- ・ ティーンズビブリオバトルでおすすめ本を紹介するバトラーと、紹介された本の中で興味を持った本に投票を行う観覧者を募集している。委員の皆様にも周知に関して協力をお願いしたい。特にバトラーは10代での募集となっているため、関心のありそうな生徒や学生がいたら是非紹介してほしい。

(議長)

- ・ その他事務局で案件があれば説明をお願いしたいが、よろしいか。  
それでは、図書館の現状と課題及びその運営方針見直しに向けての検討、検討の項目、観点について様々な角度から御意見いただいた。事務局で今後策定作業に入っていくと思うが、そういった観点を踏まえながらよろしくお願ひする。  
これで議事を終了とする。

図書館の現状と課題及び運営方針見直しの検討に向けて

1 岡崎市の図書館について

(1) 図書館の整備状況

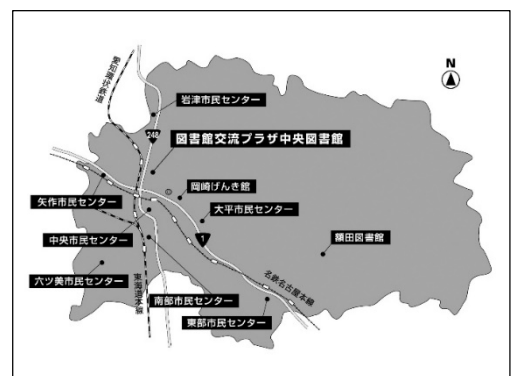
平成 20 年 11 月 岡崎市立中央図書館を図書館交流プラザ内に移転開館

平成 24 年 3 月 太陽の城閉館

平成 25 年 3 月 自動車文庫廃止 →平成 25 年 9 月 児童読書活動支援業務開始

平成 30 年 2 月 岡崎市立額田図書館を額田センター内に移転開館

施設名		蔵書数(冊)
岡崎市立中央図書館(※)		833,651
岡崎市立額田図書館		21,665
地域 図書 室	南部市民センター図書室	48,112
	中央市民センター図書室	5,138
	大平市民センター図書室	9,898
	東部市民センター図書室	9,761
	岩津市民センター図書室	13,665
	矢作市民センター図書室	17,138
	六ツ美市民センター図書室	8,697
	岡崎げんき館情報ライブラリー	14,130



※児童読書活動支援含む(『岡崎市の図書館概要 令和元年度版』p23 より)

(2) 図書館の運営計画

ア 現存の計画

平成 16 年 3 月策定『岡崎市新図書館基本計画』

イ 今後の計画

総合計画を上位計画とする『岡崎市生涯学習推進計画』内に図書館の運営方針等を記載し、図書館の役割を明らかにする。

2 岡崎市立図書館を取り巻く現状と課題

(1) 岡崎市立図書館の現状分析

ア 中核市・愛知県内との比較

(ア) 公共図書館調査データより

- ・ 市民一人当たりの年間貸出冊数(貸出密度)は 5.8 冊で、平成 30

年度中核市平均値 4.8 冊を上回り、岡崎市は 58 市中上位 15 位にあたる。愛知県内で、岡崎市は 48 自治体中 31 位に位置している。

- ・ 一方、市民一人当たりの資料購入費は平成 30 年度中核市平均の 157 円に対し岡崎市は 141 円と平均を下回り、58 市中 32 位にあたる。愛知県内平均は 293 円で、岡崎市は 48 自治体中 44 位に位置している。
- ・ 岡崎市と同様に本館が 21 時まで開館しているのは、中核市 58 市中 10 市である。

[中核市については資料編 1-1、愛知県内については資料編 1-2]

		貸出密度 (貸出冊数/人口)	市民一人 当たり資料費	市民一人 当たり蔵書数	専有延床面積 ※中央館のみ
岡崎市		5.8 冊	141 円	2.58 冊	7,895 m <sup>2</sup>
中核市	平均	4.8 冊	157 円	2.53 冊	5,369 m <sup>2</sup>
	順位	15 位	32 位	24 位	8 位
	偏差値	55.8	47.0	51.0	58.9
愛知県	平均	7 冊	293 円	7.25 冊	3,513 m <sup>2</sup>
	順位	31 位	44 位	32 位	3 位

(イ) 本館以外のサービスポイントに関する中核市調査より(52市回答)

- ・ サービスポイント数は中核市と比較すると少なく、南部市民センターを除く地域図書室の貸出返却窓口には専任職員が配置されていない。最寄りの図書館までの片道距離は中核市の平均が 5.91km のところ、岡崎市は 7.85km、順位は 40 位である。[資料編 1-3]
- ・ 52 市中 26 市が、図書館のサービスポイント以外に返却ポストを設置している(うち駅 6 市、公民館・支所・市民会館 9 市、市役所 5 市ほか)。
- ・ 貸出密度上位の自治体は、市民一人当たりの資料購入費が高く、最寄りの図書館までの距離が近い傾向にある。[資料編 1-4]

→本館の規模は大きいですが、サービスポイント数は平均を下回る。また、他自治体の傾向から、全域サービスを充実させることで図書館の利用率向上につながると考えられる。

## イ 年次推移

- ・ 全館について、貸出者数と貸出冊数は減少傾向にあったが、平成 30 年度は微増している。[資料編 2 - 1]
- ・ 地域図書室について、貸出者数は新中央図書館開館により平成 21 年度に急激に増加し、その後横ばいを保っている。貸出冊数は図書購入費の削減とともに減少したが、平成 29 年度以降上昇している。地域図書室を受取館とする予約件数も同様に増加しており、平成 30 年 1 月に行われた WebOPAC のバージョンアップと図書館ホームページのリニューアルにより、地域図書室での予約本受け取りの認知度が向上し、地域図書室の利用増加に繋がったと考えられる。[資料編 2 - 2]
- ・ 児童書について、図書購入費の削減とともに、貸出冊数及び貸出者数も減少していたが、現在は増加傾向にある。平成 28 年度の読書通帳機導入の影響が考えられる。[資料編 2 - 3]

→購入冊数と利用率はある程度比例の関係がみられるため、今後も引き続き資料費の確保は必要

→システム更新や読書通帳のような、利用率減を食い止める効果のあるサービスが必要

## ウ 窓口アンケート結果

目的：窓口業務の顧客満足度調査のためカウンター委託業者が実施

実施期間：令和元年 10 月 11 日（金）から 27 日（日）

対象者：中央図書館・額田図書館・南部市民センター図書室来館者

回答件数：中央図書館 677、額田図書館 122、南部市民センター図書室 128

- ・ 貸出返却等、窓口対応の利用者満足度は 3 か所とも非常に高く、「満足」と「やや満足」合わせて 95%前後となっている。
- ・ 本・雑誌・新聞の蔵書の充実度に関する利用者満足度は「満足」と「やや満足」合わせて 55%から 80%で、蔵書数の少ない額田図書館は低く中央図書館は高い。
- ・ サービス認知度に関する質問では、中央図書館・額田図書館・南部市民センター図書室の順に、バリアフリーサービスで 22%、25%、23%、レファレンスサービスで 17%、25%、22%が知らないと回答した。
- ・ 「あったらいいと思うと思うサービス」という質問で、票が多か

ったものを館別に下表に示した。自動返却機や返却ポストなど、返却に関するサービスへの要望が高かった。自由記入欄では蔵書に関する要望が3割と最も多かったが、返却ポストや読書通帳のサービス利用拡大についての意見も多くみられた。

質問2-(4) 他所の図書館にあって、岡崎にあったらいいと思うサービスはありますか(複数回答可)

	1位	2位	3位	4位
本館	自動返却機 16%	駅の返却ポスト 13%	予約棚 10%	電子書籍 9%
額田	電子書籍 10%	自動返却機 9%	市民センター の設備増設 9%	予約棚/駅の返 却ポスト 6%
南部	自動返却機 13%	市民センターの 設備増設 13%	電子書籍 10%	駅の返却ポスト 9%

→貸出返却の待ち時間やスタッフの対応は満足度が高いが、蔵書構成の満足度は高くない。

(2) 社会情勢からみる図書館(文科省による報告、第6次岡崎市総合計画より)

#### ア 超高齢社会

“我が国は世界的に最も高齢化が進んでおり、平成27年10月時点で高齢化率は26.7%に達している。”(平成29年3月 文部科学省『人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて 論点の整理』より)

#### イ 市の財政状況

“社会保障関連経費は、少子高齢化の進展による老年人口比率の上昇に伴い、緩やかになりつつあるものの依然として増加の傾向にある。また、公共施設の老朽化が進んでおり、長寿命化のための保全整備に係る費用の増加にも留意する必要がある。引き続き歳出削減を図り、限られた財源を効果的・計画的に活用することに努める。”(『第6次岡崎市総合計画 後期基本計画(平成27~32年度)』IV財政計画 p98より)

#### ウ 社会の変化に伴う図書館へのニーズの変化

“少子高齢化、高度情報化、国際化などが急速に進む中で、社会構造の変化、地域の課題の増加や複雑化等に対応した図書館サービスの見



直しが急務となっている。図書館は各地における「地域の知の拠点」として、国民の生涯にわたる自主的な学習活動を支え、促進する役割を果たす必要がある。”（平成 24 年 8 月 文部科学省『図書館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書』p2 より）

## エ 生涯学習の重要性

“国の第 2 期教育振興基本計画では「人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進」を大きな柱に立てており、生涯学習の必要性が高まるなか生涯学習政策としての図書館の役割はより重要なものとなっている。”（『図書館年鑑 2019』, 日本図書館協会, p15 より）

**→多様化するニーズに対応する施策、持続可能で効率的な運営が必要であり、経費を増大させることなくサービスを向上させる努力が求められている。**

### (3) 図書館の動向より

平成 13 年 7 月 文科省「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」告示

平成 13 年 12 月 子どもの読書活動の推進に関する法律施行

平成 18 年 3 月 文科省 これからの図書館の在り方検討協力者会議から「これからの図書館像-地域を支える情報拠点をめざして-」報告

これからの図書館サービスに求められる新たな視点として、

- ① 図書館活動の意義の理解促進
- ② レファレンスサービスの充実と利用促進
- ③ 課題解決支援機能の充実
- ④ 紙媒体と電子媒体の組合せによるハイブリッド図書館

をあげ、これからの図書館が目指すべき図書館像として「役に立つ図書館」をキーワードにあげている。

平成 20 年 6 月 図書館法改正

私立図書館の追加、図書館における評価の実施やその結果に基づく運営の改善に関する包括的な努力義務規定（図書館法第 7 条の 3 関係）

平成 24 年 12 月 文科省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改正

平成 13 年の全部改正。「これからの図書館像」と図書館法の改正を反映し、

今般の大きな課題である「危機管理」の項目を新設  
平成 30 年 4 月 文科省 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」策定

令和元年 6 月 第 9 次地方分権一括法施行

公立図書館を教育委員会ではなく地方公共団体の長が所管することが可能になった。地域活性化・まちづくりの拠点、地域の防災拠点などの新たな役割が期待される。

令和元年 6 月 文科省 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）施行

点字図書や音声読み上げに対応した電子書籍の普及を、国や地方自治体の責務と定めた。

### 3 まとめ

中央図書館の役割を示した『岡崎市新図書館基本計画』の運営方針を基本としつつ、当館の課題である「サービスポイントの充実」及び国が示す「図書館の役割として求められている地域の課題解決支援」を組み込み、市内全体の図書館機能を包括するものとして、岡崎市立図書館の運営方針の見直しを行うこととする。

## 図書館の現状と課題及び運営方針見直しの検討に向けて 資料編

## 1-1 中核市(58市)との比較

	貸出密度(冊)		一人当たり資料費		一人当たり蔵書数		最寄館までの距離		入館者数(本館のみ) [参考]	
1位	高槻市	9.07冊	福井市	303.2円	下関市	5.33冊	豊中市	1.03km	長崎市	1,338,856人
2位	豊中市	8.71冊	高槻市	282.4円	久留米市	5.31冊	那覇市	1.35km	岡崎市	1,286,343人
3位	枚方市	8.50冊	金沢市	262.9円	福井市	4.63冊	柏市	1.42km	越谷市	1,163,433人
4位	明石市	8.25冊	前橋市	247.0円	豊中市	4.37冊	枚方市	1.61km	川口市	1,060,911人
5位	宇都宮市	7.90冊	高知市	246.0円	豊田市	4.09冊	八尾市	1.82km	岐阜市	971,215人
6位	八尾市	7.69冊	高崎市	230.6円	呉市	3.98冊	前橋市	2.42km	明石市	940,884人
7位	豊田市	7.43冊	宇都宮市	217.4円	枚方市	3.69冊	東大阪市	2.56km	豊田市	851,172人
8位	西宮市	7.07冊	岐阜市	217.4円	旭川市	3.60冊	高槻市	2.59km	いわき市	748,041人
9位	福山市	6.65冊	豊田市	214.2円	青森市	3.48冊	船橋市	2.61km	富山市	739,344人
10位	高松市	6.60冊	豊中市	205.8円	八尾市	3.46冊	明石市	2.80km	鹿児島市	606,706人
岡崎市	15位	5.80冊	32位	140.9円	24位	2.58冊	40位	7.85km	2位	1,286,343人
平均値		4.77冊		157.4円		2.53冊		5.91km		499,469人

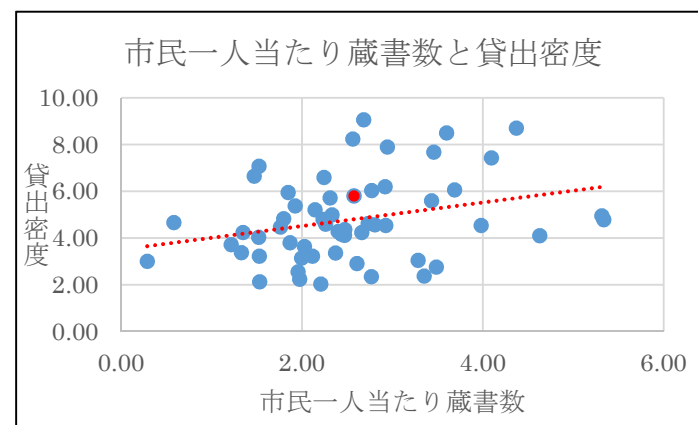
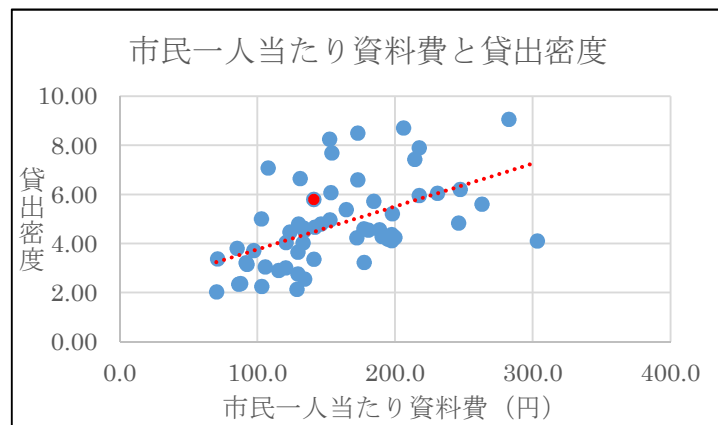
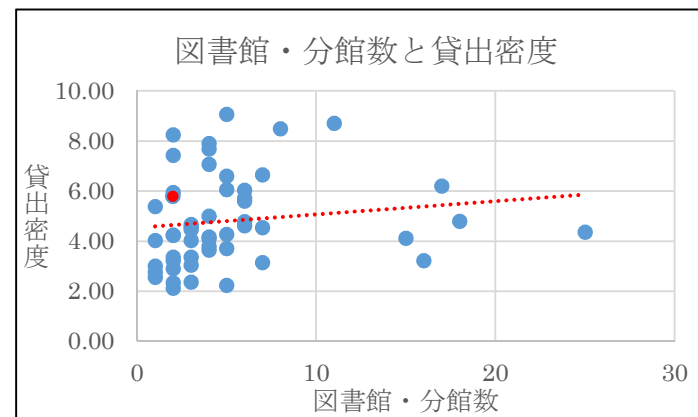
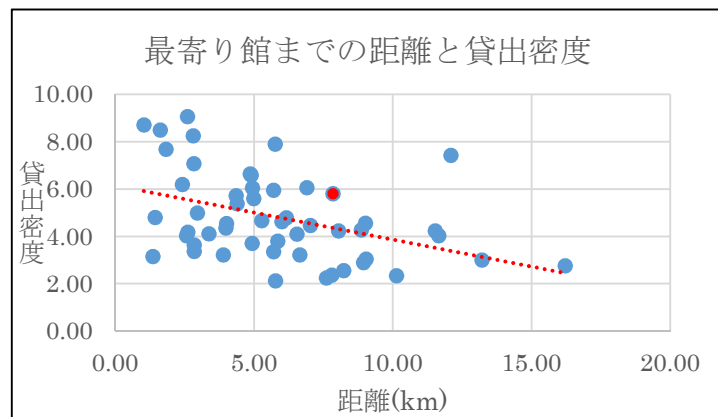
## 1-2 愛知県内(48市町村)での比較

	貸出密度		一人当たり資料費		一人当たり蔵書数		入館者数(本館のみ) [参考]	
1位	大府市	16.12冊	飛島村	1532.8円	飛島村	55.82冊	岡崎市	1,286,343人
2位	飛島村	14.50冊	みよし市	708.3円	岩倉市	36.19冊	一宮市	991,308人
3位	日進市	12.25冊	大口町	496.7円	愛西市	20.66冊	豊田市	851,172人
4位	田原市	11.83冊	田原市	450.5円	幸田町	17.97冊	安城市	763,002人
5位	稲沢市	10.57冊	大府市	449.8円	あま市	15.80冊	名古屋市	757,639人
6位	武豊町	10.47冊	安城市	443.4円	扶桑町	14.29冊	日進市	543,767人
7位	安城市	10.03冊	岩倉市	398.8円	大口町	13.93冊	大府市	531,372人
8位	大口町	9.95冊	阿久比町	391.8円	蟹江町	13.25冊	豊川市	470,514人
9位	幸田町	9.59冊	長久手市	380.2円	新城市	13.23冊	春日井市	393,060人
10位	扶桑町	9.50冊	武豊町	332.0円	みよし市	11.24冊	稲沢市	384,922人
岡崎市	31位	5.80冊	44位	140.9円	32位	2.58冊	1位	1,286,343人
平均値		6.98冊		292.8冊		7.25冊		302,960人

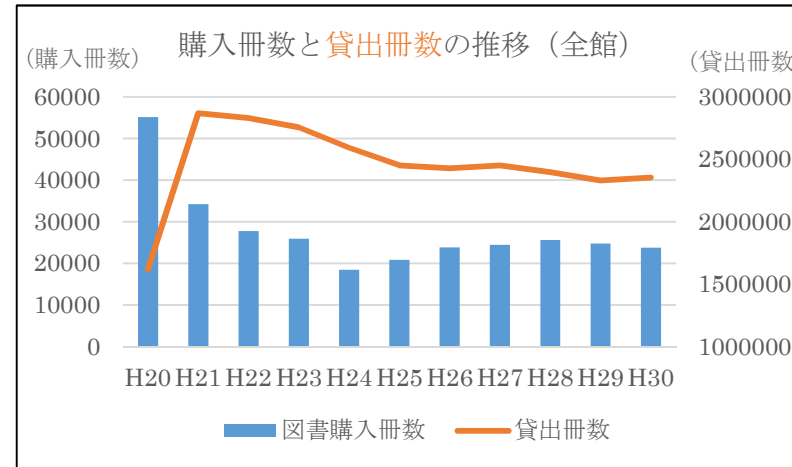
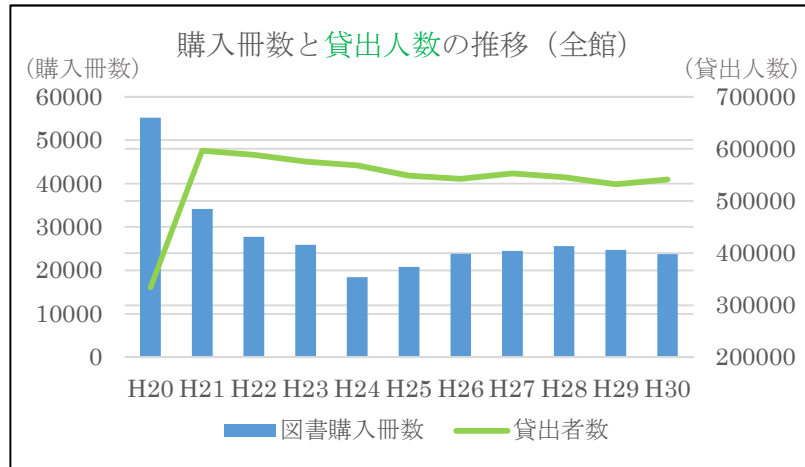
1-3 中核市図書館のサービスポイント (SP) の状況

	中核市	岡崎市	各自治体の特徴的なサービス
図書館・分館数	平均5館	2館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有料宅配サービス (4市)</li> <li>・書店やスーパーマーケットで返却可能 (2市)</li> <li>・児童館、コンビニ、商業施設、市役所分館で予約本の受取可能 (4市)</li> </ul>
最寄りの図書館・分館までの距離	平均5.91km	7.85km	
公民館図書室・その他分室数	平均10室	8室	
SP以外の返却ポスト設置数	平均3箇所 (26市/52市)	0箇所	
公民館図書室に専任職員を配置している自治体 (業務委託、指定管理者制度含む)	24市中16市 (うち一部施設のみ: 6市)	南部市民センターのみ	
最寄りSPまでの距離 (返却のみ可能な箇所含む)	2.93km	3.51km	

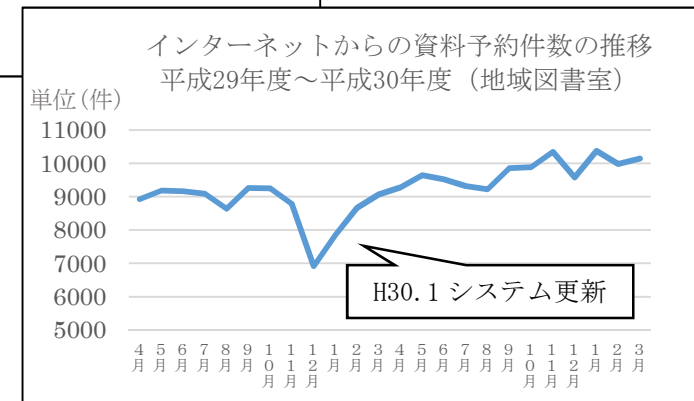
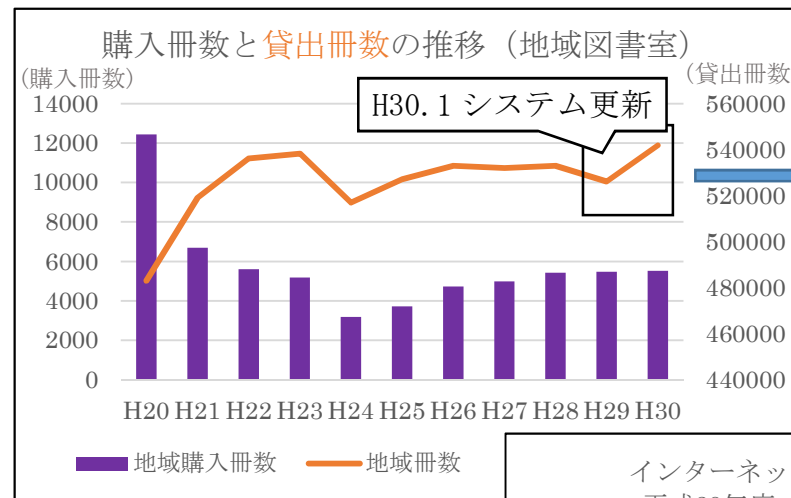
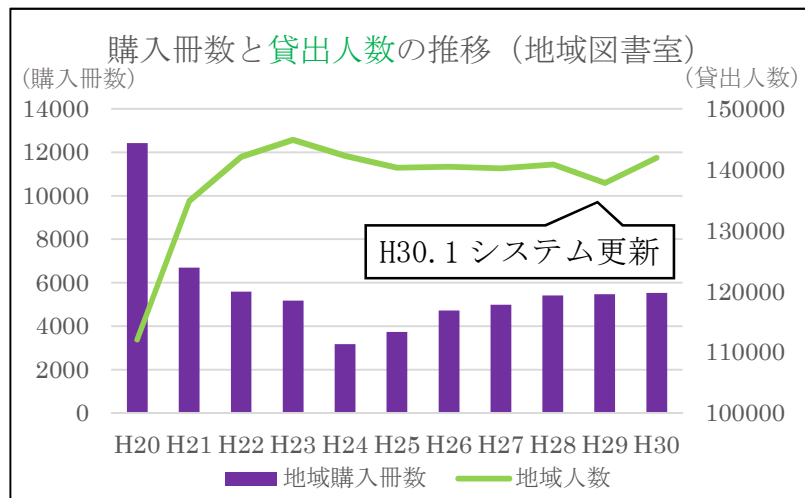
1-4 中核市データからみる相関関係



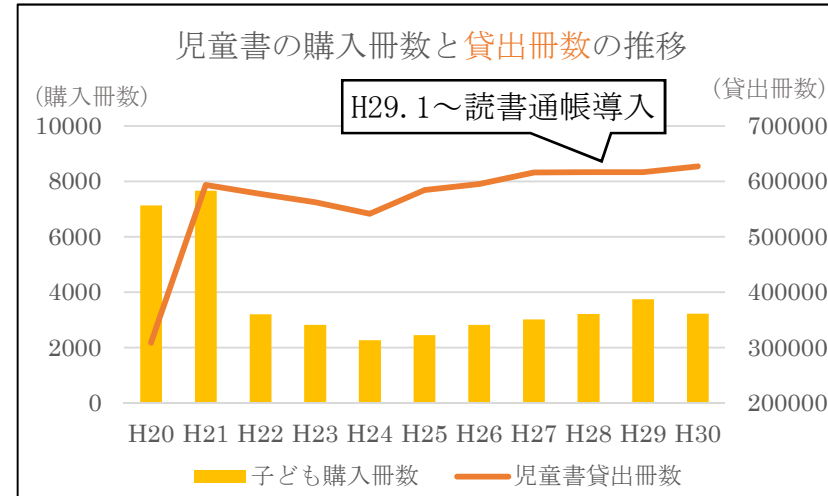
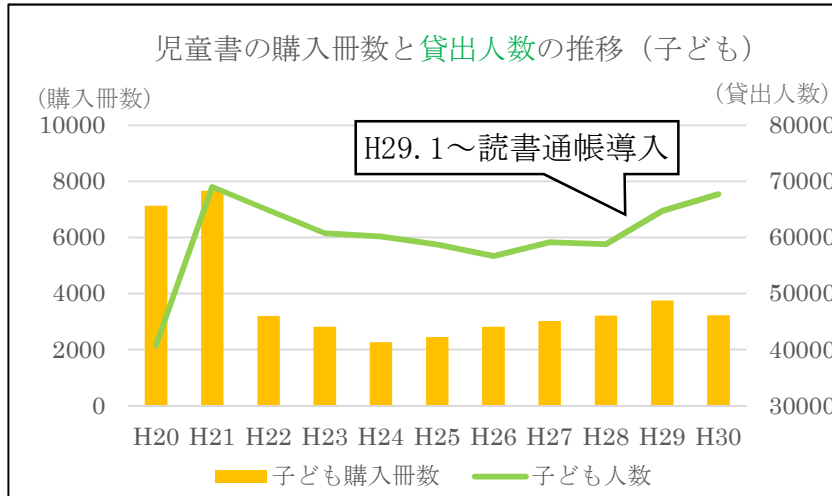
2-1 年次推移 (全館)



2-2 年次推移 (地域図書室)



2-3 年次推移 (子ども/全館)



## 岡崎市中央図書館のあり方（運営方針）

- 1 生涯学習の基盤として、市民の知的活動と創造的文化活動を支援できる「市民のための図書館」
- 2 高度情報化時代に柔軟に対応できる「情報拠点としての図書館」
- 3 文化都市岡崎にふさわしい「個性的で魅力ある図書館」
- 4 岡崎市内の図書館サービスの「中枢として機能する図書館」

岡崎市新図書館基本計画

平成 16 年 3 月